

研究機関名：東北大学

受付番号：	2012-1-412
研究課題名食道胃接合部癌の至適リンパ節郭清範囲を検討するための全国調査（多施設共同研究）	
研究期間	西暦2012年11月（倫理委員会承認後）～2017年8月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（診療録）
上記材料の採取期間	西暦2001年1月～2010年12月
意義、目的	<p>食道胃接合部癌は食道と胃の境界に位置しており、食道癌あるいは胃癌のいずれに準じた手術治療を行うべきか、明確な指標が存在していないのが現状である。同一疾患でありながら、食道外科と胃外科で異なる術式が選択されることも少なくない。すなわち、食道外科では食道癌に準じた右開胸食道亜全摘が、胃外科では胃癌に準じた非開胸拡大胃全摘が選択されることが多い。</p> <p>食道胃接合部癌症例において、各リンパ節への転移頻度を調査し、各リンパ節の郭清による生存への寄与を算出する。本調査は、至適リンパ節郭清範囲を評価検討することにより、極端に異なる二つの術式が日常的に行われている疾患の、標準とすべき術式を決定していくことが主目的である。</p>
方法	2001年1月1日から2010年12月31日までに、日本食道学会全国登録認定施設、日本胃癌学会全国登録施設において手術治療を行い、下記の基準を満たす症例を対象とした後ろ向き全国調査である。診療録により臨床病理学的な調査を行う。
問い合わせ・苦情等の窓口	東北大学病院胃腸外科 田中直樹 仙台市青葉区星陵町1-1 022-717-7205